

—意思決定の論理—

人の未来実現は行動次第だが、事前の「判断決断」が必ず伴う。結果は状況の「運」と「判断決断内容」次第で決定する。「未来の事は推論に頼る以外に手立てがない*」。

そこで重大技術になる推論(基礎になる前提となる情報をに分析,結果を導出する方法)は「論理」と呼ばれる。生活基礎になる政治経済と物作り等では1,0きっちりのデジタルに、最終目標の生活では自由なアナログでと言う主旨。

☞:本論は講座1＝奴隷日本の補足版に相当。前文で不足な重複的補足箇所もある。
内容要約は付録1参照。

日本も含めて欧米世界では奇妙な事に論理学<正確には現代的意味での記号論理>は数学者や哲学者(文学部哲学科)対象の一種抽象的学問として取りざたされており、意外にも物理学者,その他には詰めての現場的な理解がない。筆者は具体的物理現象問題接触から科学には理論では真偽決定不可能な人間理性限界問題があるとする不完全性定理が確率現象である事実に気づく。以後物理学知見から論理学基礎概念を見直せねばなら無い事実にも気づく。それは真が物理的観測可能な実現に対応する事実でもある。かような事情により論理学こそは中学高等学校必修的な現場認識に必須な方法論を提供する事も認識。それは本論で具体化される。今更学校やり直しなどとは言わずに少々お付き合い願いたい。

—目次—

— 第1部: 所望の結果を得る因果法則と失敗要因＝情報喪失(デタラメ混沌)—

- [1]: 望むべき結果を得る方法。
- [2]: 因果法則の否定≡”デタラメ混沌”とは？。
- [3]: 一意因果関係を阻む要素≡”情報喪失”と言うデタラメ起源2。
- [4]: 人的起因で起こるデタラメ起源3。
- [5]: 全体原理から部分詳細を決定する<システム設計論>

— 第2部: 人は如何に動くか? —

- [6]: 人、情報と世論形成。
- [7]: 人は如何に動くか? !.
- [8]: 意思決定の論理。

付録1: 本論要約:

付録2: 従来観念からの脱却問題。

付録3: サタン米戦略と打倒克服法。

付録4: 米国の対外債務累積問題。

付録5: 経済成長と金融破綻<0サム定理と正帰還不安定性> ➡ 不況からの脱出原理。

付録5: 米国経済は何処まで操縦可能か?.

[1]:望むべき結果を得る方法.

以下3個では大雑把な概要を述べるが、同時にこれだけで**核心部分**でもある！.
結局論理は自明当たり前な事しか述べない事を知るだろう。それ故に**普遍真理**としての信頼に足る**道具として有効**になると言う次第。以下では予備知識無用,あれば尚可.

①「どうすればどうなる? ≡ 原因(A)ならば結果(B)である」≡ (因果律)。

日常生活は「ある望むべき結果Bを得る為に原因となる行動A選択の意思決定」の連続過程が全てである。外出前は身支度を整える,これから出会う人に好印象を与える為に、会社ではよく売れる物,サービスを考え,行動すると言う次第。子供は社会的大人として通用する為の方法を学ぶ。**誰も彼も皆望むべき結果を得る原因処方**をひたすら追及して**るのだ。**と言うのも**一つ原因に対して結果は一つに対応**が常識だからだ**≡ (因果律)**。

この因果律情報を集大成したのが科学技術(芸術文化)と呼ばれる。

例):自動販売機であるボタン a 選択で商品 A を出す。算数 $a \times b = c$: 数 a と b を指定すると一つの数 c が決定。**関数** $y = f(x, y, z)$: 数 x, y, z を指定すると一つの数 y が決定。
生命は有限寿命,人も生命だから死は不可避.種を撒けば芽が出て実を着ける。

詳細に見ると一般に原因結果は一個直結ではなく多段途中経路がしかも複数ある。また原因同一に対して異なる結果すら起きる場合も多い。それでもなほ一段々の要素過程では因果律は信頼に足る基礎概念であり得る。納得できる議論は後に。

②「結果となり得る要素、原因となり得る要素を数え上げる(集合) ≡ (想定範囲)」。

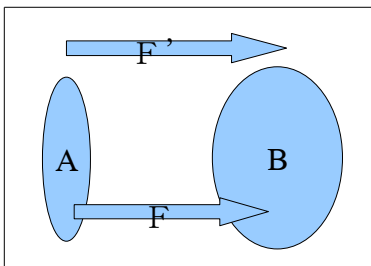
核心は「どうすればどうなる?」だが、現実作業は**想定範囲**を調べ尽くす事になる。

A: **どうすればの原因要素全て(集合)**を数え上げる。

B: **どうなるの 結果要素全て(集合)**を数え上げる。

例):敵弱点を徹底探る(想定範囲)。味方強みを勘案、勝利方法を設計(想定範囲)。
敵の出方と味方弱みも徹底探り(想定範囲)、補強対策を施工する(想定範囲)。
各種交渉での想定問答集,裁判闘争,政策論争,想定範囲は堀江モンで有名になった。

③ 失敗の要因(想定範囲外)



左図で原因集合Aと結果集合Bがその所望要素間で絡がる時、**結果F**は成就成功となる.他方**F'**の因果関係の場合は**目的**とした**因果関係: $A \Rightarrow B$** から外れた失敗を意味. **$\{A, B; F\}$** こそが**想定範囲内**と言う意味になる。左図は漫画だが現実に**AB全要素**を**目録化**する作業は**重労働**になる場合がある。だが**「敵と己を知り尽くせば百戦危うからずである！」**。

[2]:因果法則の否定≡”デタラメ混沌”とは？。

原因と結果が一对一に見事対応する関係が因果律＝因果関係だが、それから外れる事象を{不規則,無法則,確率的,ランダム,デタラメ,混沌}と言う。なぜ起こるのだから？。
科学基礎を知るは哲学宗教基礎素養にも通じます。少々お付き合いを。

①真偽判断対象になる断定的な文≡命題。

「神ならば全知全能である」の如く、「P(前提)ならばQ(結論)である」の断定型文を(条件法)命題と言う。肝心な事はその真偽決定対象になる内容が必要。
命題を否定(命題)にすると真偽が反転する。

⇒:断定文にも関わらず真偽決定不能命題がこの世に存在。[3]③ 不完全性定理で言及。

②究極のデタラメ起源1≡”矛盾”。

(1)商人「この矛は如何なる楯も破るよ」、「この楯は如何なる矛にも破れない」。

客人「その矛でその楯を突いたならばどうなる？」⇒ 商人「……」。

注:客人は商人前言「矛は楯を破る」と後言「矛は楯を破れない」の肯定否定の両命題の同時実現(≡矛盾命題)と言う実現不可能性を要求。

一般に物質世界(spinor 粒子)では肯定命題とその否定命題がWイメージで同時実現観測される事はない。それ故に物質世界は無矛盾となる。無矛盾性は後に重大化。

(2)だから矛盾実際は人間言語,紙面等の{嘘,誤り,契約,ソフト,設計等}を介して起こる。
憲法9条条文相違の自衛隊問題,科学経済拡大と天候&地上資源大破壊(人類幸福設計)。

③矛盾命題を真(≡実現)と仮定すると、無法則秩序崩壊が起こる<矛盾崩壊定理>。

証明)Qである事とQでない事が同時実現とは”Qである事とQでない事両者合算すればこの世全てが実現とは物理法則に制約されないデタラメ無秩序無法則世界。

⇒:論理学教科書では矛盾を認めると全て定理になって理論崩壊と記述してる。だから理論体系は必ず無矛盾でなければならない。この性質は物質世界性質②に合致！。

⇒:数学は”無矛盾”と言う性質一つだけで構成され論理演繹(理論)体系！。
観測可能性(無矛盾)を前提にする物質理論(量子物理)が数学記述される大局根拠。
何と”観測”と言う概念のみで量子物理骨格が論理構成可能である事が知られてる。

④矛盾命題を真(≡実現)と仮定出来ると、全知全能の神仏世界が実現<神仏定理>。

証明)Qである事とQでない事が同時実現とは”Qである事とQでない事両者合算でこの世全て”。それが実現とは物質世界物理法則に制約されない全知全能神仏超常世界！。
物質世界は上記②で無矛盾と述べた。全知全能魔法神仏超能力の世界在らば真空世界！。

⇒:実は物理真空に於ける無から有を生む真空偏極反応が矛盾実現である事から上記が証明可能！。留意すべきは真空は可観測でないから可観測理論たる量子物理理論に支障なし。実数0の秘密([3]参照)が判れば一層納得できる。実数0関連ではある場合は肯定、他方では否定を述べる二枚下に関連。それこそが矛盾性と言う事！。

[3]:一意因果関係を阻む要素三”情報喪失”と言うデタラメ起源2。

物事全てが一つ因果法則で決定、それが百貨事典になれば人は苦勞がないだろう。
本論推奨結論は因果法則を利用して良い未来実現の現時点処方を得る事にある。
だからこそ始めに「因果法則から外れる根源原因を全体把握」してしまう算段。
結論は常識通りで、情報欠落、過ち落ち度等がデタラメ無秩序を作る。

①物質世界根源は中途経路過程も、その経過時間量も確率(過程)的。

原因は結果に先立つのだから全ては時間経過物語になる。さて我等は物質世界にあるが、
根源素粒子原子分子(反応)経過は厳密に経路過程も時間経過も双方確率的になる(後述)。

所が日常物質世界は膨大分子数集合なので統計平均値が巨視的に観測される量になる。
(大数の法則)。風船の体積、空気圧、温度、内容質量の関係、惑星運動も正確に因果関係がある。
所が分子生化学反応や大量通貨流通の巨視的経済量にも大数法則が成立しそうだが、実
は問題がある。その起源は情報喪失と言われる不(可)知性に由来する。その起源とは？。

☞大数の法則:サイコロの如く試行回数を大にすると生起頻度率が一定値に近づく性質。

②因果律決定を基礎保証する(ゲーデル)完全性定理(1928):

幾何学定理の様な普遍真理は証明可能と言う古代ギリシャ以来の問題が解かれた。
確率的要素が介在しない公理系の無矛盾命題を決定論的命題と言う。それは
無矛盾性からその真偽は一つに確定しており、真ならば論理証明可能が完全性定理。
これは「P(前提としての公理)ならばQ(結論としての定理)である」の因果律を根本
保証する人類科学金字塔的成果である。本論意思決定法の背景大基礎にもなる。
証明とは常時誰にも平等な恒等的成否結論を示す事。それは同時に真の定義に合致。

③因果律決定に一部破れが起こる事を言う(ゲーデル)不完全性定理(1931):

ゲーデルは1931年、無矛盾な命題でかつ真偽確定しない命題Xが存在と言う事も主張。
それは確率現象である(筆者1992)。無矛盾だから肯定否定同時成立にない。しかも真偽
不定だから肯定否定の片方だけ成立でもないとなれば、ある時は肯定、ある時は否定が
実現、しかも不規則でなければならぬ。ゆえにそれは確率現象が一般証明される。

☞:プロ向けに言えば確率値存在証明には任意試行回数区間での収束と言う手法を利用。
いわば大数の法則の超一般化。詳細は筆者の物理学最前線参照。

(1)自然数、整数としての0は常識とおりの無だが、実数0となると事情は一変する！。

人間不可知性の第一起源は無量大に由来してる。有限ならば原理上は可知なのだが。
[0,1,2,3,4,...]は誰もが知る自然数の集合Nである。問題は点線の先の最大値Mだがそれは
無限と言う。これは確定した数として誰も言う事は不可能だ。誰かが最大値をMと主張してもM+1
はより大きい自然数にできる。だからNには明白に非決定性=不可知性が存在する。ゲーデルは
過去1931年「自然数論を含む(数学的)理論T内部には真偽決定不可能な命題Xが存在する」
と言う事を発表。基本的にそれは全て無限に由来するのだ。

☞:ここで冒頭の不完全命題が確率現象、ここではそれは不可知=情報喪失に相当する
事を見る。即ち確率不規則性と言うデタラメ化と情報喪失性は一体関係になる。
現実我々の日常業務方針立案では事前情報を完全にすることは不可能であり、
一発勝負では賭け運が避けられないと言う事情に相当するのである。だからこそ
事前情報獲得に必死にならねばならない事にもなる。

(2)実数0は整数0と同じ値である筈なのにな何と「無」と確定できない！。

$[0, 1, 1/2, 1/3, 1/4, \dots]$ は誰もが知る自然数の逆数の集合 K 。例により点線先の最小値だが、それは自然数0になる事が証明される<各自検証を>。だがそれは同時に N の最大値 M の逆数で、それは決定不可能な物であったはずだ！。確かに整数0は無として定義されたが、 $1/M$ は非決定であり、決定しない相手に着いて決定的な命題を述べる事は不可能である。**だから実数0は単純に無とも有ともいえない。**実数は一般に有限確定な自然数 P, Q の分数 $=P/Q$ として表示不可な外の数として定義されるから有限確定でない。有限ならば確かに人間は原理上確定認識可だが無限だと不可。次にその現実証拠を述べる。

(3)実験理論双方で定評ある標準理論での素粒子大きさは実数0、動作は確率的！。

上記命題こそが実は(1)(2)の内容を裏打ちする。実数0が完全無ならば素粒子は無だ。実態は無から有の間を不規則超振動、空間瞬時運時不連続移動する泡模様の奇異な内容。この過程は0確率非可観測だから光速上限の特殊相対性原理に反しない。素粒子運動の統計平均値を取ると見事に因果律的な古典力学的軌道運動が再現される。

(4)カオス現象(0確率現象)とはお化けの足を見る様なもの？！。

典型例がああ天気予報。天気予報は大気流動運動である NS 方程式を大型計算機で解く作業から可能になる。この方程式は確定した係数量を持つので決定論方程式と呼ばれる。だから得られる解は確定量の決定論関数であるのだが、そこには最新各地の気候量を境界初期条件として盛り込む事で常に更新された予報を打ち出す。だが長期予報は難しいのだ。なぜか？。それは解の実現確率が今問題にしてる実数0だからだ。0ならば本来見れる内容に無いはずだが、我々はそれをある程度見てしまう。丁度足の無いお化けを見るように。だから足(長期予報)を見るのは難しいのである。

(5)宇宙創始とわれ等の運命！：

前述大気運動は空気蒸気分子衝突運動の膨大な体系だが、ここの衝突反応過程は厳密には確率過程と呼ばれる。その個々の実現される過程は(統計)標本過程と呼ばれる。その実現確率は実数0になる。ある誤差幅を許容して多数過程を集計すると有限化。だが個々の実現は幅無き確定だから実数0確率。これをカオスという(プロにも誤解)。量子物質運動、それは宇宙創始発展過程をも記述。その内容は確率過程で天候に同じ。我等運命は問題の矛盾的な実数0確率の一つの標本過程上にある。だから**運命は天恵者予言できるとも我々意思次第とも言えるのである！。この事実は格段に重大！(最後の審判)。**

④非因果性に関わる警告：

- (1)巷ではゲーデル完全性定理に言及の情報は稀で、人間理性の限界などと言うデマ？がゲーデル不完全性定理に関して事沙汰されてる。事実は本論通り。プロに騙されない。完全性定理発見前から本人は迫害されたらしい。と言う事は世界の誰かが情報操作。
- (2)[2][3]章の要約結論は**有限**でしか感知できない我等地上物質である人間の科学では非決定性=**情報喪失**の結果、因果律視点に於いて不規則性、確率性が不可避になる。
☞:物質人間は有限だが、非物質世界存在(神仏)となると事情一変、重大詳細後述。
- (3)日常生活や業務に於いても情報獲得は不完全であり、因果律誤算の結果が失敗を招来。だから**無知、詐欺、情報収集努力欠如=他人任せは破綻敗北**を招く要因と言う事を銘記！。本論目的がまさにその回避にある！。
- (4)無の世界は役者も舞台も、故に筋書き(法則)も無い。矛盾的だから何が起っても良い。
 $0 = +E$ (物質正值エネルギー)- E (重力場負値エネルギー)、無から有を生む論理である。

[4]: 人的起因で起こるデタラメ起源3。

人に関わる要因として{物(自然),人,社会(政治経済)的契約,文化}がある。

ここまでは物(自然)中心で社会契約的对象を多少議論した。自明の如く人間は社会的動物で、個では通常生きれない。となれば社会環境場での人的関係解析は重大。

① 不平等としての犯罪[嘘,詐欺,盗み,殺し,戦争]と悪魔論理:

人間社会ではなぜ犯罪が許されないか?。人が労苦を払って獲得した物の横取りを許容すれば結局社会全体日常に勤勉と安心快適が欠落、デタラメ無秩序世界になる。盗人だけが有利の不平等発生。だから盗人とすれば不平等性を正当化せねばなるまい。それには自分らは他者より特別に偉く、許されるのだと言う悪魔論理以外にない。もっとも生活苦の小泥棒もあるが、これは逆の差別結果産物ともいえる。

人類歴史を振り返ると、大衆生産物を巻き上げる王様殿様政治形態が長い。技術革新大量生産資本主義は一見物資供給平等を達成したかに見えるが、実はそうではなく、依然として財閥王侯貴族の裏支配にある事は本講座第一回の主題結論。

結論: 平等は社会安定の筆頭目標。逆に社会不安定起源に不平等不正がある。

② 国民知力とマスコミ<不平等隠蔽機構にもなる政治経済システム>:

国家基本法では全国民の平等な権利義務とその実現のための政治制度が詠われる。経済機構もそれに準じて財生産と所得発生・納税に機能してる。だが不平等不正と社会悪が尽きない。なぜか?。政治制度も経済機構も全て社会契約<法治国家>。ならば社会契約(それは政治が決定するのだが)のそこに不平等があるからだ=①結論。なぜ被害者は救済されないか。既に物での議論で無秩序性と情報喪失一体性を指摘。

結論: 国民知力と学校教育, マスコミ情報詐欺に問題があるのだ。

③ 本章結論: "物"での議論だったが社会的関係でも情報欠落=無秩序化が成立。

[5]:全体原理から部分詳細を決定する<システム設計論>。

①概論:物事を進める上で、よく間違ふ深刻な問題は目先に囚われ、その対処だけを遣っ付け仕事で済ますと、どこかに歪しわ寄せが起き、後にしっぺ返して大失敗する事が多い。
如何なる時でも全体構造原理を見極めねばならない(想定範囲)。また作業遂行途上で困難発生は頻発する。その時、改めて一度原点全体構造把握に戻り、再検討で救済される場合もある。一度原理原則を定めると、後に築かれた大システムを台無しにする原点回帰は難しいのだが、根源原理に誤り発見ならば躊躇する余裕などないのだ。

欧米文物輸入の明治維新後の従来日本人が苦手にする大問題である。

人は往々にして過去遺産の上で甘い暮らしができると、遺産を崇拜してしまうものだ。だが負遺産もある。しかも取り返しのない巨大欠陥を抱えた物が。

根源原理に誤り発見ならば、躊躇する余裕などないのだ！。

例 1)バブル崩壊:財の価格上下変動を狙ってやるマネーゲームは必ず誰かが儲ければその分を誰かが必ず補填=損害の構造原理になる。これを承知でやるは賭け。

例 2)格差雇用 :悪魔思想については本講座第一回参照。以下の例はいずれも格差思想に起因する事に注目してもらいたい。

例 3)受験産業 :残念ながら小中高等学校学習はあくまで社会参加準備であり、その学習を産業化すれば無意味な消耗生産になるだけ。真の教育成果は現場で判る。

例 4)防犯産業 :犯罪、戦争を生む土壌こそが根源糾弾されないのは対処療法。しかも軍需産業 産業化すれば無意味な消耗生産になるだけ。真の生活財を形成しない。それどころか逆に犯罪多発、戦争勃発を望む悪魔化が起こる。

②全体構造原理:

(1)とことんその出発点に戻って、全体構造を検証再考する事が望ましい。

(2)全体の名水準。

- * 個人<家族と友人同僚等<地域職場、名組織団体<業種業界<国内<世界。
- * 部品<単位機能<局所システム<ネット網。
- * 現代史<世界史。

(3)出発点(起源)の水準。

- * 宇宙創造と神と生命。
- * 古代人思想。
- * 宗教。
- * 資本主義。
- * 共産主義、社会主義。
- * 現代人思潮。

③正しい論理,原理は必ず存在して現実反映、現実原理と論理で解釈可能。

計算機普及の現代では技術分野関係者は理論が現実をよく反映する事を認知してる。だが社会問題分野(思想宗教,政治経済)では経験現場感覚にあり、未来対応ができない。

未来将来問題対処には原理,論理解析しか手立てがない(実はもう一つあるのだが！)。

[6]: 人、情報と世論形成。

本報告は望むべき将来社会実現の為の技術基礎論、**情報流通**が一般化した民主制度現代社会ではその核心が(政治的見解の)**世論形成**にある。その問題機構を展望。

①人は何に情報依存してるか?、誤情報問題。

(1)学校教育:致命的欠陥あり<本講座一回読者は了解済み>。

- * 既成学会の墮落腐敗により科学真相隠蔽(数学物理,思想宗教歴史,政治経済学が深刻)。
- * 科学の超常性否定により宗教教育否定、倫理平等問題と社会悪。
- * 教育機会平等は人材確保で必須。非世襲制こそは社会腐敗退廃防止策でもある。

(2)新聞TV:既成大新聞は実態サタン手先、現代大規模詐欺の主要因。詳細は②。

(3)週刊誌,雑誌:一回講座視点で”広く探す”と深層入口を暗示する情報に遭遇。

(4)一般書籍 :一回講座視点で”広く探す”と深層内部に踏み込む内容情報に遭遇。
書店によっては検閲展示があるから、日頃から注意。

(5)インターネット:無料情報なので(3)低度,(4)は外国サイト。広く探す。

(6)地域職場,社交,組織での局所口コミ情報:交友関係での信頼度に依存。

②準強制的大量情報散布=既成大マスコミ支配と見えざるファシズム(全体主義)=現状。

(1)朝日(毎日)vs 読売の見かけ上対抗はあるが、本質は双方戦後以来の既成体制保守、批判があるとすれば体制危機を招かない叱咤。強制料金のNHKも保守牙城。

(2)基本基調は体制保守の為に米植民地構造徹底隠蔽、だが騙しの為に抵抗姿勢も見せる。
人スキャンダルとスポーツ芸能の衆愚路線。政治が人でなく政策である事を極力隠蔽。
現保守体制は衆愚の為に報道技術等を徹底開発。外形美礼賛の思考停止国民思潮。

(3)彼らが変わる条件は以下の③で国民が真相察知、騙しが効果しなくなった時点。

③自立成長型の情報伝播と変身的世論形成=体制打破国民決断の世論形成:

雪だるまは始め小さい、だが一度転がり始めると近傍雪をかき集めて増大膨張」。

大マスコミが隠蔽しても世論形成は可能。**情報効能が誰にも明らかならば雪ダルマ。**

日常にある人から人への口コミ伝播、メール伝播、インターネット伝播もある。

マスコミ発達前の前近代でも世論形成があった。現代は市民平等に情報手段がある?!

☞:葉の上を這う毛虫が蝶に,地中幼虫がセミに羽化する様は脅威!、学説によれば受精から誕生に至る**成長過程**は,同時に**生物進化過程**でもあると言う。通常始めはプランクトンの様な単生物が魚,爬虫類,鼠,猿と連続的に辿る。すると虫からの蝶,蟬の成長は凄い。毛虫がサナギになると内部では**細胞液状的溶解**が起こり,一気短時間で通常の連続的進化論的意味では例外的不連続的(?)に蝶,蟬に変身!

☞:**ファントム葉**:<鈴木,現代物理学最前線 p37,ネットにも参考情報,西原進化説>。

上記成長に関わる現象として有名なのがキルリアン写真とファントム葉現象、切り落としたはずの葉の亡霊が見える。植物の種が芽を出す時,その**未来成長姿**が問題写真には写ると言うのだ!。だとすると**成長は未来の理想の姿に沿う形で成長する**と言う**妥当な結論**に至る。毛虫等はおそらく空を飛ばたいと強烈に願望する姿を心に描いたのだろう?!。遺伝子だけで決まらない。西原進化説を読むと何か判るかも。

☞:広い原理的議論としても力学系が不安定化すると**元状態から離れる揺動**となり、次の**安定点を求めて模索移動**すると言う意味になる。但し流れがある開放系と無い閉鎖系では**秩序形成化と無秩序混沌最大化**の大きな差異がある。

☞: **秩序形成化と無秩序混沌最大化の差異由来:**

物質の相互作用には本質的に異なる2つの形態がある。一つは局所的な存在の素粒子、原子分子が**衝突反応**と呼ばれる形態で不安定変化そのものである。他方物質には定常形態としての固体結晶、高分子等の**安定秩序**もある。後者での最大特徴は電子分子分子が相互反発よりも**引力相互作用で絡がる**事だ。引力と言うのは問題の物理真空(誘電分極双極子)を介しての多個の遠隔的な非局所相互作用。

この科学事実は我々社会的人間相互作用でもずばり当て嵌まるでないか。

☞: 生物細胞形態は安定的固体的高分子系と不安定流体分子系の共存形態になる。だから発生成長と言う秩序形成と死と言う無秩序化も両方ある。

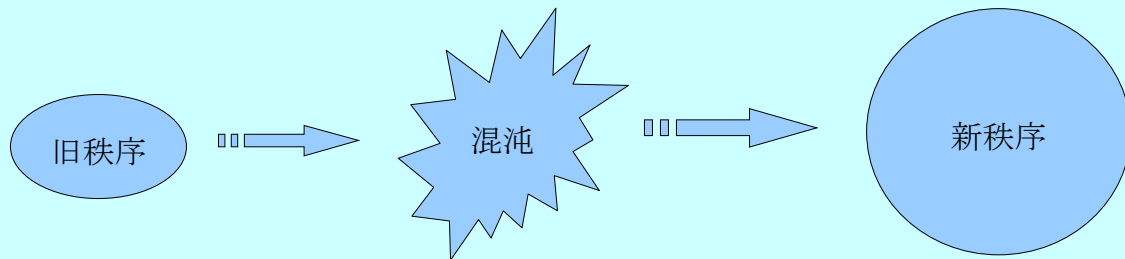
④ **変身的世論形成の過程と秩序形成要因:**

歴史を振り返れば、革命とは**支配体制矛盾が暴露され、体制否定の民衆大揺動**を通じて成就する一般形になる。このとき**未来理想姿を提供するのが革命指導思想**である。典型はブルボン王朝腐敗と民衆貧困に起因、自由平等博愛指導原理による仏革命。社会体制が政治経済的に混乱をきたす事はよくある事だ。その時、指導原理がなければ社会混沌混乱化になる。もし良き指導原理あらば、秩序形成になる可能性が起こる。

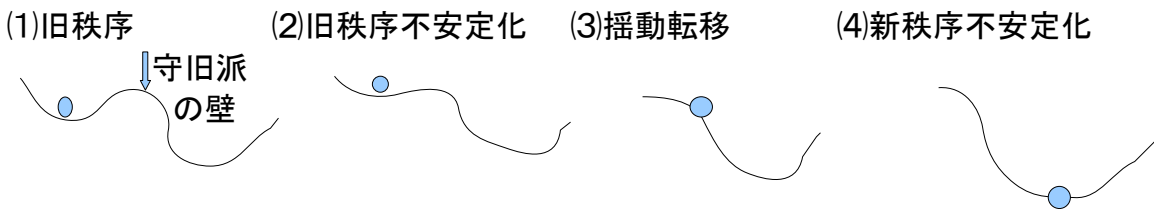
(1) 変化過程の一般的形式:

既に[1]~[4]章議論を通じ、**「デタラメ化が情報喪失, 不平等不正に起因」**する事を強調した。やはり**「正しい世論形成と言う情報存在」**があつてこそ成立と言う法則もあるだろう。ここでは一度混沌と言う極不安定性の峠を越えて後に再秩序形成が可能になる事実だ！。

＜＜化学反応, 生物変身等自然現象, 社会矛盾から混沌不安定化を通じて新秩序社会形成＞＞



「旧秩序矛盾の不安定性が混沌大揺動になり、再度安定化としての秩序に転移」。



一つは(1)旧秩序の右の壁＝守旧派抵抗力である事は明らか。政治的体制変革では旧秩序よりも新秩序を希求する強い正しい動機形成が原動力になる。それが守旧派の壁を破る事になる。**この事は意識革命なのであり, 故に情報真偽とその了解多数派形成が鍵になる。**

⑤ 言論流通と市民大衆.国際化の運動方法:

略。勝敗を決する重要課題,今後技術開発予定。

[7]:人は如何に動くか？

網羅的に述べる事は不可能なので日米政治を念頭に日米人等を考察。不明点多し。

①米国支配層の基本的な考え方: <不明な問題も多い>

米国は [Rockefeller 財閥](#)(先祖はドイツ系)の考えかたが代表的であるが、極右＝軍産複合体 CIA([右翼民間団体](#)とキリスト教右派はCIA系)も基本的である。

(1)WASP(white anglosaxon protestant)ゲルマン系こそが世界支配民族の優生主義。更にその中での資本主義選抜で最高位を占めた見えざる Rockfeller 財閥＝[王家](#)。ずばりまさに(1回講座奴隷日本)の主題であった[悪魔思想](#)その者。確かに政治経済を高効率運営するには表向きの民族人種差別は何かと障害だから、対外的にも過去批判を浴びてきた問題から米全領域での差別は減少傾向。だが北方白人の特徴として人口過に過敏反応。例えばロックフェラー系の対外活動ではアジア等での人口抑制政策に当地では反発を買う。最も過激なCIA軍の場合は、積極的に有色人種国で内乱等を陰謀した(カンボジア大虐殺のポルポト支援策)。近年では米軍フォトデットリク基地研究所開発の人工細菌兵器エイズがある。今アフリカでは民族絶滅の危機すら進行中。まさに悪魔である。米国は世界最大繁栄国と言う事だが、他方1割が食券発行での生活保護者。2割に及ぶ低所得層では犯罪も多発。刑務所は満杯であると言う。競争格差主義の産物！。9/11 告発の Michel Moore 監督は最近、米国医療保険の悲惨さを暴露した映画も製作。「[天国と地獄が同居と言うのが悪魔思想具現の証拠](#)」。以上は支配層の産物である。

(2)国民に行き渡る徹底した[反共思想](#)、冷戦前からの米国伝統。勿論前記のロックフェラー資本主義独裁体制護持の為。丁度日本の財閥頂点にある天皇体制に同じ事。従って各種右翼団体がその護持に当たるシステムも日本とまったく同じ。右翼団体にはキリスト教右派(CIA系)が民間に根深く浸透。左翼のない米国では教会が民衆苦境の受け入れ口と言われる。ブッシュ選出の背景にもあると言う。かつての米国の番頭と言われたキッシンジャーが「米国では左翼革命はありえない、恐るべきは右翼革命(ブッシュ政権がそれに相当)である」と述べたと言う。しかし時代推移で何が起こるか判らない。

(3)[富,技術,暴力](#)<アルビントフラー>。経済,技術,軍事格差での悪魔主義は明白。最近のハリウッド製映画(洗脳マシン)はこの主題が多いことに気づくだろう。他方で JFK(産軍CIA司法警察の[米国全体主義陰謀の政治暴露](#))や[Gオウエルの小説](#),映画 1984年、映画マトリックスのような[全体主義での人間超管理社会](#)を告発した物もある。

(4)見えざる米国全体主義(日本も類似！):

表向きは自由と繁栄の国米国だがアイゼンハワ大統領退任演説で内部告発された如く、米国はナチス、東ドイツ的な全体主義をより偽装した見えざる全体主義国家。この事は映画JFKでも具体的に示唆されてる主題。軍CIA警察司法行政＋マスコミと言う税金食らいが中心に全体主義網で米国を現体制護持の為に裏支配。この問題は米税制告発の Edmond Wilson の著作(海外発禁)、破滅的な[米国負債額 48兆\\$を告発した](#) [M.Hodges](#) も部分指摘。近年米国の行政経済が肥大してる事実。Bertram Gross も著作フレンドリーファシズムで米国全体主義を告発。天皇の陰謀の著者＝David.Bergermini はその著作活動が同書刊行以後断たれてる。この事は全米出版会が検閲ファシズムにある証明でもある。幸い日本では赤間剛氏の昭和天皇の秘密,三一書房の如く天皇制批判書は刊行されてる。全米出版会がこの調子だから大新聞TVは推して図るべきであろう。だがスカルボンズの著作は刊行されてる。

(5)米国の教会は大方がCIAの息がかかった存在だとの指摘もある。と言うのも米国には左翼政権が無いから国民の泣きつくところが欧州政治の様でない。そこでこれを代理するのが教会だと言う。実際、ブッシュ擁立背景に右翼教会の活躍が指摘されてる。最も全てではない。と言うのも光輝結社(ドイツ発祥国際右翼結社＝イルミナティ)が有色人種抹殺計画グループという某宗派告発サイトも筆者は見た事もある。彼らは本物の宗教者でサタン告発にあるのだ。

②米国の民主勢力：〈現状は名を上げられないが潜在的勢力は大きいはずである！〉

リベラルで颯爽と登場一時、米で大人気クリントン大統領だったが、彼はロックフェラー系の隠し子らしい。そうやたらに庶民が大統領選に出るなどは極めて困難だから。筆者は外信を通じての主要な米民主勢力を残念ながら知らない。一般的に米人の過半数は基本的に米国体制を支持してると見られるが、ブッシュ登場と9/11アフガンイラク侵攻以後は様相が一変してる模様だ。小泉ポスターを貼る米人を夫に持つ人の話ですら現地では反ブッシュ運動が激しかったと漏らしてる。1929年米に発する世界恐慌は米国を赤ならずとも桃色にしたと言う。実際戦後GHQ内の左翼的軍人 pinkers が日本民主化に作用したと言われる。但し日本国憲法草案は実は憲法学者＝鈴木安蔵が中心に編纂した物で米国製ではない。ここは誤解が非常に流布されてる事に注意。この項目②は今後情報入手次第で改定予定(識者は情報を寄せてください！)。

③米国の階層性と国民意識：〈正確な所は今は判らない〉

(1)全所得の半分を搾取する全米人口の1/4＝支配エリート。

彼らはビジネス知識は超優秀なはずだが、欧州人的思想哲学性では弱い。筆者は米企業勤務5年で得た経験では高級エリートは確かにビジネス技術塾達者。その生活哲学は物質享楽主義、プール、自家用機等の所有が地位象徴でそれを希求。その意味でのプライドは世界一だろう。だが書籍等を通じて知る知識人には敏感な洞察力で米体制に批判派も少なくない。CIAは全世界の出版物放送等を常時検閲してるから、中には海外発禁情報多数があるはずで実際の批判派は相当あるだろう。

(2)全米人口の2割に相当する低所得層：〈正確な所は今は判らない〉

日本と同様に彼らは己生活キュウキュウで体制批判どころでもなかりうが、その政治意識は日本より強いと見られる。不合理に対しては拒否反応を示す所が忍従の日本人とは違う。だから米国での政治監視も強力であろう。情報流通次第で希望がある。

(3)中流階層：〈正確な所は今は判らない〉

ブッシュ以後は9/11問題が発覚し、その支持率の異常低下を見れば彼らの健全性が一つ判る。Gullupの最近調査では30%前後、最悪の数字と言える。日高義樹氏の指摘によれば米国人意識一つは島国根性だと言う。実は彼ら一般は世界を知らない。米国は何でも世界一だと騙されてる。米国は既述の如く全体主義情報管理国である。典型はアポロ月面探査の大嘘、実際はスタジオに月面模様で擬似撮影ビデオを世界配信！。地球を取り巻くバンアレン強度放射帯を人が通過したらばホットドッグ化する！。

(4)米国は徹底した競争主義でビジネスを加速して大規模経済を運転してる。その意味で彼らも分裂させて支配せよの下に超高度な詐欺＝全体主義管理下にあるのだ。他方現状地位が高いほどに保守である事も確か。欧米人一般の気質として不合理には忍従せず、直ぐに反応が出る所が一つ健全性であろう。だから情報流通次第なのである。

④わが同胞日本人の政治意識と脱却法:

(1)民主主義稼動に危険な基盤にある強者に甘んじる気質<全体主義嗜好>。

長いものには巻かれろ,出る杭は打たれるの言葉が象徴する事は強者に従う従来主義。

(2)最大級に危惧される点は高度成長時代に物豊富,小子化環境で育成された若人である。

幼少に困窮困難の体験が無い事は逆境で生き延びられるのかの懸念である。一般論では三つ子の魂百までで,幼少時に保護者依存を強めると成人しても自律できないのだ。

本論主旨如く現代日本は過去にない未曾有大局危機にある<サタン米支配>,基本的に人は二分される。パニック状況でも冷静頑丈に建設的対処できる勝ち組と何処までも強者にぬかずくだけの犬、幼兒的ジタバタ反応だけで自滅する負け組み。過保護者は後者になってしまう。

③冷静頑丈に建設的対処できる！。

①潜在心理に抵抗力と自信育成に最短距離は実は肉体鍛錬、いわゆるスポコン。

過保護者は害して肉体能力もない。病身者には闘病その物が試練になる。

長距離走での身体耐久訓練、鉄棒跳び箱での危険恐怖克服と決断力、競技ゲームでのガッツと苦しい戦いを共有する事で可能になる友情信頼、チームゲームの団結力。

②以上体験は心理的逆環境での耐性訓練でも通用するが,全部とは行かない。

③営業マンと対人説得訓練:

人を説得して命の次に大事なサイフを開かせる事ができる為には相手心情事情の読み、信頼獲得、説得言語能力と対人作法全てが必要になる・セールスには人間間作法の大部分要素が含まれるだろう。最も催眠セールスなどのいかがわしい偽術もあるが。

④知的能力訓練:

知的能力に自信のない人はどうしても他人依存になる。何かの挫折を動力源に発奮。

⑤詰め将棋相当の知的能力訓練:

勝負をかけた知的作業訓練。

⑥集団員能力と集団指導指導者:

組織員としてあるべき能力、指導者としての能力(指導者論は今後別途用意)。

⑦思想哲学と宗教心:

己の死の床を想像し、逆算してのあるべき人生使命感(佐藤康行氏)。

⑤上位意思支配にある組織での主義主張自立形成の問題:

誰もが保守的組織の中で生きてる。ここで一人奮闘で従来観を覆すは容易でない。

この時は一つ組織以外に革新意識にある別組織に参加する手立てがある。

⑥人はどう動くか(個性相違を超えて何処まで人は一致団結できるかの視点で).

人総合は生理的状态(食欲,性欲,生命防衛本能~体力健康状態),基礎的気質(心理学参照),知的処理能力-思想宗教観、**所属集団**=家族友人,職業,団体,...国家と社会的地位-資産等の個人固有性質によって、一定刺激に応答する行動や政治見解は様々になるものだ。

- (1)**最大の見解一致を見る事象**=論理学>数学>物理学>化学>生物学>.....>歴史. 宗教狂信者等にはこれらをも否定する人々が居るが、概して基礎科学が最も見解を共有できると筆者は判断した。なかならず観測可能な物質世界事象で現実化は一つ！。

と言うのも物質世界を舞台にした事象は必ず一つ事象実現であって、Wイメージで**AがBに成る事とBでないに成る事が同時に物が見える**などは一般にはありえない事だからだ。**<可観測物質世界の無矛盾性>**。推論対象の真とは”実現(可能)”の意味である！。

”実現可能”とは何と希望的響きの言葉でないか！。

他方,嘘は個性的自作だが、格段に留意すべきは事前に存在する科学事実は誰でも証明可能,認知可能な内容で個性が完全に無いことだ！<真理、真実の非個性性>。

- (2)と成ると**歴史事実は一つ**になる。学者多数見解があれば一つ以外は間違いになる！。現実問題として**の人類履歴書は嘘が多いのである。それは現支配秘密に絡がるから。**
- (3)経済実態を文学的に論じるのも自由だが、**所得分布と言う数字グラフほどに現実社会の格差様相を語るものは無い！**。学校数学で嫌な思いをした者多数だろうが、数字は根拠に誤り無ければ文学よりも露骨に現実を語る。数量計量化を**デジタル方式**と呼ぶ。

(4)**不公正社会では(体制マスコミと一対で)個人崇拜が支配する超危険と衆愚！。**

- (a)封建時代は王侯貴族という個人崇拜の下に大衆多数が年貢の奴隷身分制度だった。
- (b)ヒトラ-,スターリン,戦前?昭和天皇,金日成のファシズム奴隷体制では個人絶対崇拜。
- (c)現代日米政界では芸能人政界進出が目立つ。これは政策論でなく個人崇拜の愚！。確かに気心知る人に託したいのだが、**政治本来は商品性能=政策選択なのだ！。**
- (d)**個人崇拜**は被支配階級が**思考停止**で指導者の言いなりになる**専制支配が目的**は明白。この問題は本論普及での次の重大障害に深刻に関わる。かような団体組織には警戒！。

(5)**真理真実に目を背ける反逆グループ=悪魔手先ファシズム集団の大問題：**

- (a)反逆悪魔最大の武器は**常識を逆転して人類多数を大規模に詐欺**する事である。現体制が事件発生を目論んだオ-ム事件,遠隔操縦機衝突の9/11テロと中東侵略。
- (b)科学的社会主義標榜の左翼政党,実態は保守補完の実働右翼、**党員多数が大詐欺に！。**マルクス階級闘争史観は格差問題指摘で正解だが**共産政府官僚化で新支配階級発生。**反宗教は大誤算。ソ連共産主義成立は欧米資本が裏支援の大歴史陰謀。だから自主解体化。目的は欧米資本主義の外に敵を設定し,内部での内ゲバを防止して体制防衛団結だった。
- (c)戦後米日本支配の為の奴隷頭組織=天皇制を兜での東大法学部政治警察の日本支配。それに連なる電通マスコミ支配と大新聞,放送,財界政界官界行政,学会,芸能界等。その上部に米CIA支配の構造。赤坂米大使館,米資本企業,米軍基地が彼ら発信拠点と言う。
- (d)この集団本質は選民,保身主義,己の過去犯罪性暴露を恐れ,一層罫に嵌ると言う仕掛け。一度漬かると抜け出ない**思考停止者**を種々選択してCIAは利用するのである。

- (6)**誰でも人は一人で生きれない,結局,共に生きる最良の道を選ぶしかない事になる。悪魔誘惑の競争主義は長期視点では争奪に過ぎず,社会不和その他反動で結局良い結果を生まないのだ。競争利己個別主義は大局システム改造不能と言う致命的欠陥を持つ。**

[8]:意思決定の論理.(ここまでの技術主旨に基づく総合演習).

概論:事前判断が行動結果を左右する訳だから、事前判断が入念になされる事は当然、現実には限られた費用と時間内で用意できる情報不完全も避けがたい。以下では競合相手の存在を前提に勝利戦略の意思決定論を考察。あらゆる作業同様に伴う必然的な流れは下枠の通り。ここでは方法論の主旨だけを紹介。詳細化には専門家作業要。基本的に経験直感論を克服すべく、計量論的なデジタル方式を試案。

- ①何の為に(目的),②何を(対象),③ どうする(戦略方法),④ 方法に必要な人.金等(対価)
⑤「どうしたら(原因A)どうなる(結果B)(simulation=戦略模擬予測と実現確率)」.

- ①論文=奴隷日本にて戦後日本が米国支配の実態植民地にある現実多数を例示した。かような状況は放置すれば将来存立が一層危うい。本物の自主平和民主日本構築が目的。簡明に言えば競争淘汰,巨大詐欺の悪魔支配から共に生きるの神仏勅命社会への移行達成。
②悪魔支配弱点を暴露し,我ら生活政治闘争能力を高め,悪魔打倒と日本世界解放を図る。
③「どうしたら(原因A)どうなる(結果B)(simulation=戦略模擬予測と実現確率)」.

以下は簡単な模型的議論例、現実には詳細具体的作業内容(プログラム作成)になる。

われ等戦略(利得)	VS	仮想される複数の悪魔逆襲(対価)	仮想確率と経過対処
A^1 = 悪魔支配暴露広報 と国民認識と団結 政策戦略解析作業		B^1_1 = 無視, 団結分断策, B^1_2 = B^1_m =	P^1_1 (シナリオを書く) P^1_2 (.....) P^1_m (.....)
A^2 = 革新政権樹立 政策戦略解析作業 対外政策		B^2_1 = B^2_2 = B^2_m =	P^2_1 (.....) P^2_2 (.....) P^2_m (.....)
.....			
A^n = 革新政策施工		B^n_1 = B^n_2 = B^n_m =	P^n_1 (.....) P^n_2 (.....) P^n_m (.....)

味方戦略 A^n と仮想される敵戦略 B^m_n の経過対処と結果の生起確率 P^m_n が上記模型表。この擬似予測作業は詳細を詰めれば重労働になる。敵を知り,己を知れば百戦も危うからずの孫子の兵法の具現化。かような解析作業を通じて最も有利な作戦を意思決定する。なほ悪魔暴虐逆襲の対価として国民怒り団結爆発に転じれば逆に彼らには負に作用。

- 闘いには物差し,計りが必要である<計量化は現状では仮想的,今後開発研究要>。
($A^n - B^m_n$) \equiv (攻撃成果量 - 反撃被害量) \equiv 攻撃利得とも想定する。
- 闘争過程 $\{A^n \times B^m_n\}$ 結果は確率 P^m_n で実現,攻撃利得小期待値 $= P^m_n \times (A^n - B^m_n)$
の m について全小期待値総和を取れば、その正負から戦略 A^n の成否判断が判る。
- かくて名戦略に対して想定される反撃に関する攻撃利得期待値判別法(2)で評価。
- 否判断戦略に関しては改めて案を練り直し。
- なほ敵反撃が逆に味方増大に反応した時、悪魔逆襲対価 B^m_n は負値化。
- 以上の様にデジタル杓子定規手法によらず,アナログ直感文章的推定法も当然あり得る。

④「想定範囲と言う擬似模型予測」が意思決定の基礎になる。

⑤意思決定としての(利得対価コスト)の期待値での標準的な評価法:

例えばA円の費用で確率Pで価値Bと確率Qで価値Cを得る選択肢がある場合、 $(PB-A)$, $(QC-A)$ の大小評価で損得の選択肢が決定できる。勿論確率数字を絶対的に推定するは必ずしも容易でなく推定でしかないが相対的評価はかなりできる。いずれにしても必要な情報には常に不足が付き纏う。ここを如何に想定範囲に組み込むかが勝負どころになる。人材発掘、費用等は前述のAの一部に勘定される。経営戦略、政治戦略、軍事諜報戦略に関して筆者は素人、専門家諸氏支援が望まれる。

⑥簡単な模型での演習例題:

従来は経験と直観に頼るアナログ技法での決断。以下ではよりデジタル化した普遍性ある方法論を提示。人技量に依存しない技術開発獲得なれば、より民主化達成。

(1)統合的な政党支持決定の簡易標本例題:

	重視度	A党		B党		C党	
税財政・所得政策 (財務)	1.00	No3	50 × 1.0	No1	80 × 1.0	No2	70 × 1.0
労働と産業・福祉社会保障(実態経済)	0.90	No2	60 × 0.9	No1	70 × 0.9	No3	50 × 0.9
外交政策	0.80	No1	80 × 0.8	No2	70 × 0.8	No3	60 × 0.8
総合得点		168		199		163	
直感順位		No3		No1		No2	
決断				決定!			

解説: 左端は支持に於いて重視する性質順位と重み点、次に各性質に関する各党評価順位と評価点を配置する。かくて各党評価点 × 重み点の総計で総合得点決定。次に己直感で順位を付ける。得点と直感が一致すれば決断決定。直感と一致が無ければ反省、評価重みと各党評価各点配位、直感を修正し満足いくまで遣れば決断可能。

補足: 政策重視度順位や各政策政党評価順位は相対的なので結構判断可能であろう。問題は評価点配分であり、妥当な評価法を理論と過去経験から確立する必要がある。

(2)悪魔打倒戦略選択の概論: <参考書:高島穰,孫子の兵法入門;会田雄次,決断の条件>

①繁栄か滅亡か,それが戦争だ。激しい怒りが無ければ敵を倒せない!

* 日本国民 3/4 が奴隷労働で稼いだ富 75%を 1/4 が独占,それを物資資本輸出で米上納!

②勝敗は戦う前に決してるものだ。確率を計算して高い方を選び、感情判断で事を起こすな。奴隷日本で我等がどれほどスポイルされてるかを見た。不要な高慢は排すべきだが己能力の過小評価は自滅への道。概して戦後日本では真の実力者は隠蔽されてきた。

③闘いに定石や常道はない。水に勢いあらば石すら浮かぶ。

④攻めるものは勝ち,守るものは負ける。相手盲点を攻めれば必ず勝てる。

* 米 GDP1500兆,他方債務総計 6000兆で既に破産国家、虚栄繁栄の騙し破綻で自滅!

⑤敵を知り,己を知れば百戦危うからず。

* 情報は他人に先んじて入手せよ。一般民衆を味方にせよ。

⑥相手の名と性格を捕獲せよ。

米支配層は一種の潜水艦、世界に騙しで実態を隠す。見えるのは己野望と視野狭窄の世界観、故に彼ら**虚栄騙しサタン正体**がばれると自沈の運命。ナチスもナチス化米国も再度敗戦！

敵＝米国財閥、軍産複合体 CIA 等の**ナチス化米ファシズム体制**、ブッシュ骸骨と骨結社。過度の自己中心主義の驕りと視野狭窄が彼ら致命傷、**全体原理**が見えずで敗北！。

⑦相手の身になって考えよ。敵心中を想像せよ！。

- (a)日本を経済的に潰したらば米国運転資金飢渴、世界戦略が破綻、だから主に**情報攪乱、団結分断陰謀**を徹底、組織指導者狙い撃ちもあるはず、現状がまさにその様に動作。
- (b)もう一段進行した段階で**米国発の経済恐慌化**。
- (c)経済社会が**苦境混乱段階**で更に**団結分断策動**を陰謀。ここで勝敗決定。

⑧トップの人選を誤ると組織を滅ぼす。幹部は率先して身を正せ。。

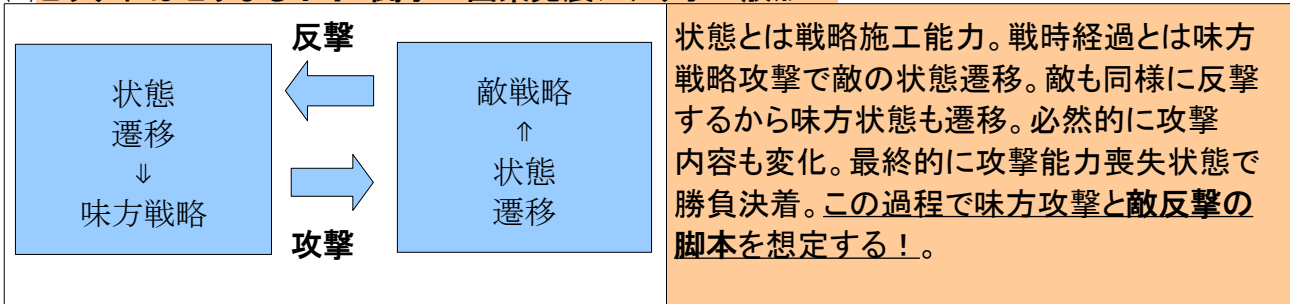
わが民族弱点も長所も直視、**弱点克服、長所全開を通じて大活路を開く！** 騙し脅しを超えて日本潰しすれば①*の理由で**米国も自沈**。だが無傷の勝利は不可能を事前覚悟。**我等勝利の理由は超越的神仏天啓から全体原理(共に生きるべし)が読み解けた事！**。当然悪魔は我らを**窮地**に迫いやり「共に生きるべし」が実践できるかを迫るだろう！。即ちまず**裏切り勢力**を総動員して**隠微な内部分裂策動**に動くだろう。

⑦勝負シナリオと戦略選択：

(1)想定される勝負シナリオ概論：〈詳細化への基本枠組み〉

A ¹	敵の騙し正体を喝破、全世界へ 真相暴露広報と政治団結戦略 に一つ勝敗が掛かる 虚栄騙しサタン正体＝敵正体暴露 で能力喪失へ。
B ₁ ¹	
B ₂ ¹	:
:	:
B _p ¹	
:	:
B _m ¹	
:	:
B _E ¹	

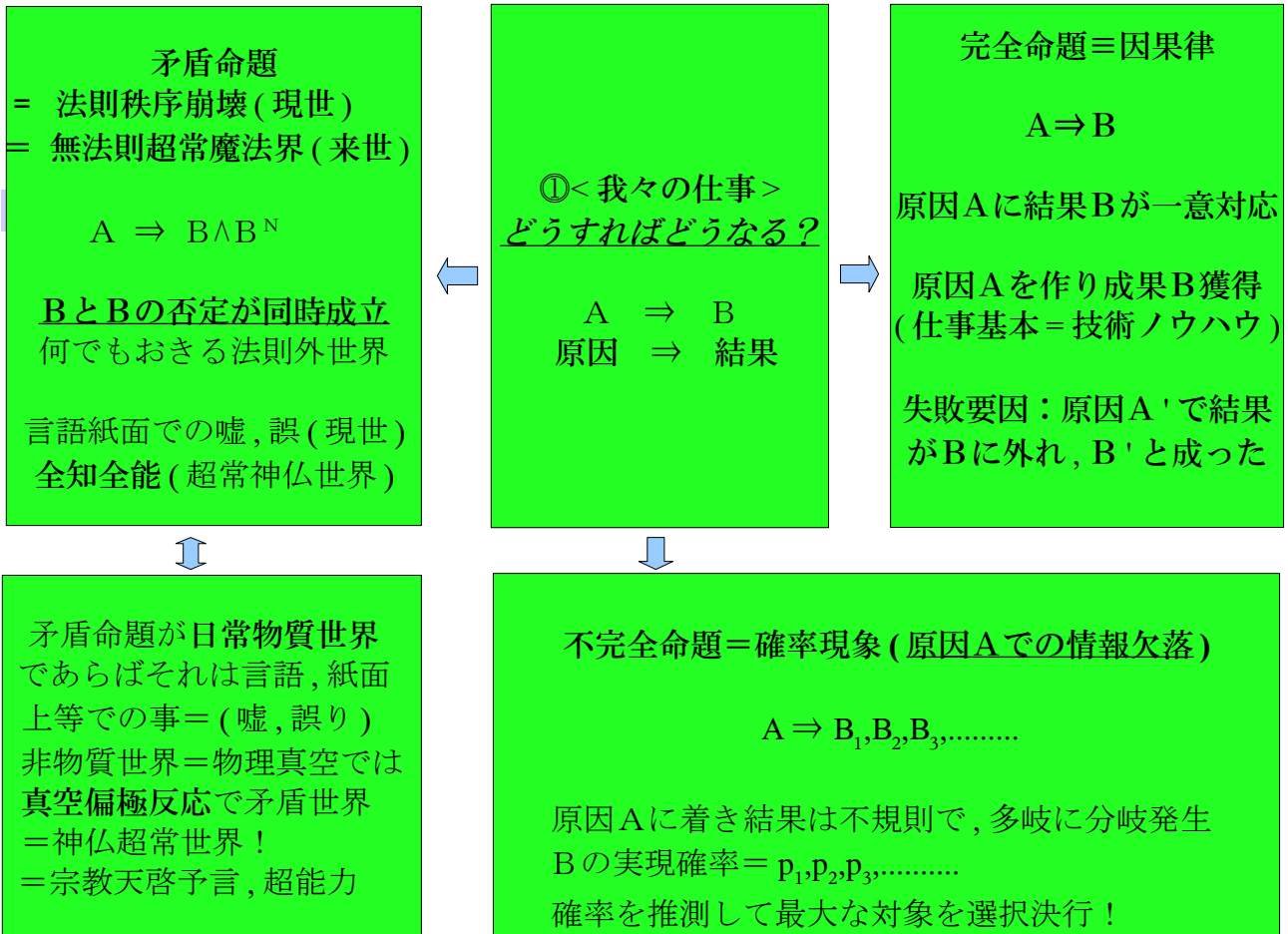
(2)どうすればどうなる?! 〈闘争の因果発展シナリオ一般形〉:



(3)闘争中(攻撃被害小判断<勝利意欲大):

(4)終局 (攻撃被害大判断>勝利意欲小):

付録 1: 本論要約:



一失敗と不正デタラメの要因一:

- (1) 因果律からの外れ
- (2) 原因に関する情報欠落⇒ 結果の不規則化 (確率現象化), 量子化学、経済動態,
- (3) 人為的起源でのデタラメ化=不正不平等, マスコミ詐欺情報と国民無知。
- (4) システム設計=全体構造原理から初めて部分詳細設計へ (逆にすると矛盾発生)。

一②複雑系の状態転移過程 (世論形成、形態形成論)一

- (1) 体制変革は内部矛盾発覚と情報拡散世論動揺で一つの新規秩序を希求する。
集合秩序的運動が始まる。だが守旧派の壁が阻害要因!
- (2) 飢餓に喘ぐ市民はブルボン王朝腐敗に怒り, 自由平等博愛の新思想に導かれ仏共和制
革命を守旧派の壁を乗り越えて達成. 格差ポテンシャルは一段下がり安定化へ.
- (3) 温度低下で水分子は自由運動エネルギー喪失低エネルギー出系が安定である為には
氷というより秩序だった形態を希求する固体秩序では引力が主体になる。
- (4) エネルギー効率化交通を考えると乗用車等の個別試用からより組織秩序だった公共的
大量輸送システムに切り替わらねばならない。

③誰が如何する、人は如何に動くか？！。

	宗主国＝米国の支配構造：	植民地国＝日本の支配構造：
支配層	(1) Rockefeller 財閥,etc (2) CIA(FBI)米軍産複合体.マスコミ. (3)政官財(軍官僚行政)-Yale 大,	(1)CIA.米軍. (2)天皇家.財閥閥閥,政治警察.電通報道系 (3)政官財(軍官僚行政)-東大,
思想	ゲルマン人世界支配優生主義、 世襲貴族財閥支配＝悪魔思想！ 富技術暴力(謀略詐欺)で世界支配透徹！ 商売と軍事両輪で帝国主義侵略政策。	米従属の奴隷頭悪魔思想。 奴隷頭業遂行で米から身分庇護 超管理国家植民地日本 米国の物資資本と政治での補完国。
機能	世界最大 GDP から大規模搾取。 物資大量供給享楽満開経済で国民騙し、 見えざる諜報機関支配全体主義国	富裕層に富集中と米国上納システム 物資大量供給享楽満開経済で国民騙し、 見えざる諜報機関支配全体主義国
政治	共和党(保守派) vs 民主党(体制的リベラル)	自民保守一党長期独裁(CIA 派 vs 土着派) 野党分裂で政権交替無し。
生活環境	虚栄繁栄物質文化満開,他方で貧困同居. 金銭目的での過度の競争ビジネス,脱落組 マスコミ扇動下での刹那享楽主義	虚栄繁栄物質文化満開,他方で貧困化進行. 企業ファシズム下の管理労働,雇用差別化 マスコミ扇動下での刹那享楽主義
国民意識	1/5 が所得大半を独占,残りを 4/5 で争奪. だが中流以上の米国は世界一の島国意識. 他方で少数知識人等に体制批判あり、 だが Bush の 9/11 中東戦争後,意識変化,	1/4 が所得 75%? 独占,残りを 3/4/で争奪. 前は総中流意識,最近は格差化で貧富拡大. 従来より少数知識人等に体制批判あり、 伝統的な忍従と甘え構造,が今は過渡期.
将来	巨額負債破綻,世界恐慌化の可能性. 新規思想で革命	外需で経済数字回復,だが国民生活窮乏化. 新規思想で革命

④かくすれば日本、世界は動く！！<現代サタン支配打倒戦略>。

<p>神仏勅命＝共に生きるで大同団結勝利, 調和分配システム構築=生存共同保障</p> <p>宗教真理広報で悪魔正体暴露と打倒！。</p>	<p>← 己は上等,他は下等,呪術で人類地獄へ. 個競争争奪扇動で虚繁栄騙し,貧困.戦禍</p> <p>→ 隠れ反逆サタン＝ゲルマン右翼財閥貴族</p>
---	--



- (1)新標準科学が宗教天啓機構を明白化 ⇔ 科学宗教が対立はサタンの大詐欺。
- (2)従来逆転されてた種々の大真理,大事実を認識共有する事で大同団結可能！。
- (3)食糧住居エネルギー確保と生存の分配保障策.⇔天候異変と生存基盤破壊.資源飢渴対策.
- (4)敵を知り,己を知れば百戦危うからず<己状態,敵状態と戦略行使＝闘争過程>
- (5)敵は「共に生きる」が実践できるか否か迫るだろう<買収脅迫の各種の団結分断工作>
- (6)闘う紳士淑女諸兄妹に神仏加護があらん事を！。

-付録2: 従来観念からの脱却問題-

常識として組織運営長期経験から築かれたノウハウが有効なればこそ指導者に選ばれると言うものだ。だが一つ路線で事が旨く運ぶ経験が後に害になる事も多く、**過剰適応の不適応**。世の中には過去経験にない事象に遭遇する事が起こる。この場合は過去経験では役立たない。何処の諸国でも指導者・権力者は相応の年輩者。年齢地位無関係に新規事象には学習研究姿勢が常に必須であると言う事だろう。

①永田町国会議員の特殊性:

国会議員答弁を聞く機会が多い。常に感じる事は己不利問題に対して言葉巧みに焦点をそらして形だけの答弁が如何に多い事か。国会議員とは一般人とは別人種で、永田町人は心臓に毛が生えた人たちだと言う人がいた。「・・・法令に則って対処して来ました」。有名に成った松岡、赤城農林大臣のセリフ。だが両名は**共通して破綻**を招いている。

(1)言葉無益の技術屋とは全く逆位相の政治家?!:

国会議員で技術系出身者は決して珍しくない。またある政策に精通した専門家も多い。議員職に着いてから専門知識を深めたと見える議員も多数見られる。他方科学者として大なるの成功を収めた専門家でも、専門外や社会常識を知らない人も多いのだ。職業人にして己専門は超得意だが、それ以外は無学と言えれば軽蔑的だがそういう人大多数が現実である。筆者は現在、意思決定の技術に関する報告書を作成中だが、その結論は簡明単純明白で、**情報欠落、誤解、過ち誤魔化しが失敗破綻**を招くと言う要因抽出だ。政治は政策実現だけに価値があり、それが納税者に対する対価と言うものである。**政策実現**とは技術的製品に相当する。確かに制度的内容だから当初は目に見える形でないが最終的には**国民生活現場その物の実現**。年金制度等を見れば誰も承知できる。

(2)上で政策実現＝国民生活現場としてきた。実は前記報告書基礎論に**真＝実現**と言う論理学概念を提起してる。数学系や文学部系の論理学者は真は論理学外の意味として形式的対象として定義すると言う。だが物理学をやると**観測可能対象＝実現対象**だけが真の定義対象になる。典型例は長さ1の正方形対角線の長さは $\sqrt{2}$ と言う分数では表現不可能な実数と言う概念で厳密定義されたらと数学者は言う。だが誰が $\sqrt{2}$ の真の値を最終的に測定できるか?。誰も不可能!。余談が過ぎたが、だから

真＝実現である以上は政治だからこそ誤魔化しはご法度の姿勢が要求されるのです。

②如何にドデカイ従来常識でも過ちと証明されたならば、決起決断を!。

- (1)歴史真相として天皇制度は英国が実質作ったのも同然、日米戦争は己保身の為に昭和天皇が開戦決断、日本アジアで数千万戦死や膨大な社会基盤破壊。それを今崇める超愚のサタン性。**憲法1条**は明白な過ち!ぜひ決断を!。
- (2)敗戦占領と戦後政治歴史真相見れば米軍基地とCIA存在が裏暴力で日本民主政治を如何に歪めて来たかの現実を直視。ならば**安保廃棄**は必須条件です。**日米安保**こそは裏切りの米従属派か否かの踏み絵です。これは日米外交断絶を意味しない。米国は世界主導的、その市民革命を支援せねばなりません。影で命がけでやってる人多数が居るのだから。
- (3)日本には従来より裏表で**政治脅迫**が絶えない。捜査権力を持つ**保守体制政治警察**が管理するのだから、真相究明は土台無理と言う話。これでは言論思想政治の自由はない。
- (4)以上3問題は**奴隷日本解放の必須条件**であり、**大同団結の元で政策改修施工が必須**。

付録3: サタン米支配層世界戦略とその打倒克服条件-

以下で米国支配層の世界戦略サタン性を喝破し、その否定命題として自然簡明にサタン打倒克服の論理が浮上する事を提示する。我々は”神仏の道”に戻るのです。

①米支配層の(国内)世界政治経済戦略:

- (1)基本思想＝優生主義の下に富、軍事 CIA、謀略技術占有で世界支配＝サタン思想！。
- (2)基礎は**経済力！！**＝技術商業開発、資源産業(石油食糧)等での優位占有。
- (3)**米国物質享楽文明満開と演出された民主主義**で富権力独裁への自国民敵視を騙す。
同時に世界に見せびらかす事で**世界を米国流化**、米国の世界進出支配地盤を形成。
- (4)Oサム定理から**経済成長は負債先導で可能化**。**世界余剰資金流入法**として
米市場開放と自国民消費扇動での対米輸出での黒字還流金融システムを構築。
- (5)米サタン性を感知する知識人が居る。これを監視抑圧するのが**見えざる米ファシズム装置**＝大マスコミと政治警察(FBI&軍 CIA、右翼協会等)。この構造は日本も同じ。

②サタン米の泣き所＝金融システムと米政府民間世界最大債務等:

- (1)上記米経済構造が回転する為には米市場＝**消費持続成長**が不可欠、だが無限は不可能は誰も承知。既に大規模市場になる商品技術はIT以後はない。衣食住基礎は既に満タンだから、**華美虚栄競争**(たとえば新車、住宅等)を煽る以外にない！。
- (2)クリントン米政権下で瀕死にあった軍需産業と自国資源飢渴間近じかの石油産業等の米右翼が結集して陰謀したのが悪名高い**9/11テロ**とこれを口実にした**アフガン、イラク侵攻暴挙**、だがこの荒手謀略は直ぐにばれて軍部CIA等が市民運動抑圧で働くしか手立てがなくなる。だがこのままでは済まない。
- (3)**対米債権国**は中国日本欧州と中東産油国。彼らの出方次第では米資本流入が停止。米経済成長停止は同時に金融破綻で世界不況になる。

③中国、ロシア、インド、ブラジル、中東産油国、欧州、日本の出方?!:

(1)米以外の諸国事情:

誰にも貧乏は劣等感、途上国にすれば世界経済成長の煽りに便乗で一日も早く米国並み生活を築きたいと切望してるだろう。欧州、日本の経営者にしても米不況になると自企業経営が煽りを受ける。かような意向を担う政権ならば**ぬるま湯の保守**。

(2)**サタン国は米英日の王制3国(米国は見えざる超財閥と言う王制支配国):**

以下は筆者見解になるが、要するに米の世界支配体制に替わる思想方法がないのだ。皆がサタン虚栄幻想に騙されてる！。いやサタン仲間が世界各国で政権担当か？。だが日本英国王制国家を除く**共和制の全諸国は競ってアフガンイラク侵攻には大反対した**。と言う事は**サタン国は米英日の3国**、もし民主党でイラク撤退になると米英のみになる。

(3)**サウジと日本と言う米従属の王制サタン国家:**

筆者はサタン予言の超特大情報はコラーンから得てる。コラーン思想を一言で言えば神の下の平等と団結！、それと偶像(個人)崇拝禁止。これは平等思想にも由来となれば王制はイスラム思想にそぐわない。実際アラブで最も裏切りにあるのがビンラデンのサウジである。同様に自国を米に売る日本は天皇を兜にした閥閥支配エリート体制だ。

④世界危機認識と現状世界体制に交替する方法の出現:

(1)米国主流に発する現代文明は麻薬,現状延長は誰も知る**天候異常資源飢渴**で大規模危機。この論点は既に奴隷日本の中で主題として述べた通り。人間の不完全な知恵が、サタン誘惑に負け,欲望全開になったのが現代麻薬文明に通じた産業革命と資本主義。この結果、神仏の道は遠のいて**サタン支配世界**に、その頂点こそが現代であろう。

(2)このカラクリが判れば正解は自ずと決まる。神仏の道に戻る事である。それは

サタン優生主義の否定として人類平等、「共に生きる」の神仏勅命になる！

当然な帰結として**悪しき貴族世襲主義たる王制も否定される。**

「共に生きる」とは殺生ご法度だから軍備廃棄にもなる。

(3)この結果,競争差別主義の資本主義体制は否定されて**世界協調経済体制**になる。具体的に世界天候異常に 대응する**世界協調先駆けである京都議定書方式がモデルになる。**CO2の各国規制で「共に生きよう」と言う思想に成っている！

(4)サタン誘惑の結果こそが世界的な**天候異常資源飢渴=生存社会基盤と生存資源破壊**とすれば,その否定としても**「共に生きる」の基礎として、食糧住宅エネルギーの基礎生活要素確保**が条件になる。

(5)以上の(2)(3)(4)結論は**サタン否定の論理**だけであって筆者思想などでない事に留意。幸いな事に極めて簡明で判りやすい結論と見られるが詳細には大尽力が要請される。

⑤以上の「大局構造原理」を基礎に,諸氏も早急に詳細な具体政策技術を共同開発！。略。

⑥反サタン思想普及に伴う反動支配層勢力の動きとそれに拮抗する民主勢力台頭:

彼らにすれば大規模騙しが暴露される本論普及に伴う反動等を想定してみる。

(1)筆者関連では戦前同様の東大法学部系政治特高警察とその連動勢力が最大勢力。東大,官僚行政,司法警察,NHK,日共,朝日,三菱軍産,ドイツ系コネ(CIAは同系)は頑固。

(2)物理数学基礎論の研究が無いと超常現象,宗教天啓の真意と宗教書研究は無かったし,サタン発見も無かった。これらに関して該当学会態度は無視,個人誹謗中傷,実態反動右翼だが学会中心に自称左翼,筆者反天皇論に対し直結右翼で無く左翼が動く事だ。結論として日本国内左翼一部は米CIAに連動。奴隷日本でも日共問題を指摘した。一見リベラルの教育界、市民運動系一部にも本論忌避派が見られる事には注意。

(3)福田派系の自民軍需派(三菱..)は最近の強姦小泉に見る如く対米従属CIA派。同派が郵政民営化での国内巨額資産米将来流出と地場派党人撲滅を目論む。

(4)本論最終出力は国民生活福祉だが,福祉行政を担う公金給与者達に反動(社保庁),東大系の問題(1)と金融機関(巨額国債)の勢力は税食らい憑き勢力、この勢力が反福祉に動作。米軍産複合体CIA等も税食らい憑き勢力で同質。政治は国家財政争奪戦が判るだろう。

(5)サタン思想世界暴露のある限界で米支配層は潰し手立てを打つ。脅し一手目が今のサブプライムロン破綻。これは始まりに過ぎない。ソロス等も従来より米破綻が間近の論陣がなぜか延命。理由は金融市場と情報の操作両輪。彼らは不況化スイッチを持つだろう。

(6)米国内と世界に同思想が普及すると当然ながら**反動勢力抑止勢力が台頭**。世界自爆破綻を止められるのは彼らの大同団結行動しかない。没落貴族の心理を察するべし！。

(7)軟着陸破綻(?)と再生新規復帰はあるか。可能である。支配者は少数,実働勢力は世界大衆だから！。その為にも**情報検証編集と詳細設計情報等が早急に世界普及せねばならない。**

付録 4:米国の対外債務累積問題。

07/8.17,8.25

世界経済は(技術商業開発+負債)先導(扇動)での米国需要が世界製品・通貨双方を輸入する事で回転した。だが需要頭打ちは経済不可避、結果が金融破綻と連鎖する不況化。中心になる金融0サム定理と米負債状況を web 上等で調査した。不況後の問題は付録 5。

①0サム定理=負債総額+通貨資産総額。<金融議論の為の原点！>

本重大定理が見当たらない事は既製経済論書は偽書罪起訴を免れない。それは経済以前の純会計学定理。物品サービス債権等の一切の取引売買の前後に於いて両者通貨資産和は不変。なぜならば売り手収入増は正確に買い手支出額に一致する。閉じた経済系では、**通貨資産総額+負債総額=不変量=0**。<0サム定理>。

信用通貨発生は中央銀行印刷への擬似負債で発行するから問題の不変量は両者総和で0 結局世界経済での**通貨資産総額増大は経済成長中心である米国負債で相殺して0**。

0サム定理本質は誰かが富豪になると弱者が負債計上の必然。現世界では米政府財政。米民間(抵当証券等)となる。日本では政府地方財政～最終的に福祉が弱者になる。

②GDP(付加価値総量)経済成長は=流通通貨量増大=負債発生での誘導で可能になる。

消費増,増産,新規設備投資等での支出増大には投資(新株&債権発行)が必須と言う事。負債者が返済可になるには負債額以上の収入が必要=負債額以上支出があると言う事。之即ち更なる通貨流入が無ければ物価増大インフレで経済停滞になるから借金一途増大

借金流入→成長→借金流入→成長…の自転車操業せねばならない。だが必ず成長停止は不可避→返済不能→不況→返済不能→…。底から再生が始まる。

之が**世界経済主導飾り窓米国経済成長の本質！**その結果,家計企業行政に膨大累積債務！世界の途上諸国経済発展とは米国市場が買い手になり,諸国に儲けをばら撒く事に相当。米は他国生産物とそれに付随儲け余剰資本として更に流入の2本立て吸収タコ。

③世界最大負債米国の累積債務状況:<web 上調査では正確な値が困難、隠してる！>

米国の家計企業政府の累積債務推定値は以下の通り。

(1)米国のGDP=\$12.232.296(2005年/出典 wikipedia)=1480兆円(以下120円換算)。

GDPを知る事はその国の生産規模簿と負債償還能力の把握に基礎的になる。

(2)世界最大負債米国の累積債務状況:

	USA YODAY	Grandfather Eco Repo	FRB
連邦政府負債	504兆円(2004.10/4)	1044兆円(2006)	586兆
州地方政府負債	204兆	204兆	241兆
<医療保険社会保障等>	5616兆	7560兆	
家計債務(抵当サラ金)	1140兆	1536兆	1538兆 960兆(日経'06)
企業金融		1080兆 1704兆	1756兆

上記表からFRB(米連邦準備銀行)と Grandfather Eco Rep(GER)は連邦債務を除き良い一致にある。GERは米総計債務=48兆\$=5760兆円(米GDPの4倍)を主張してる。だがその数字は医療保険社会保障等を除外しても数字!。勿論債務は相殺する資産との比較で見なければならぬ。

Grandfather Economic Reports の URL=<http://mwhodges.home.att.net/#top> .

07/8月現在問題のサブプライムロンは抵当債券の範疇。関連記事は田中宇氏サイトの“世界金融危機のおそれ”を参照されたし。抵当債券会社が結構危機化したと言う。基本的に米は豊かな国なので債務が貧困層対象抵当ロンに集中した事は米と云えど、新規市場としては貧困層需要の開拓にあったという今更ながらの市場飽和的事実が浮上。米金融は当初からこの抵当ロンが危ういを承知したからこそ、ハンバガ的金融証券に粉飾して世界に売りつけたのだ。よくわからないのが企業債務である(3)。USA TODAY 論調によれば圧倒的規模増税なしに将来の社会保障等は米国でも困難と指摘。

(3)貿易赤字:

データ出所は次の website=http://en.wikipedia.org/wiki/Balance_of_trade.

<<1991~2005の米貿易収支赤字グラフ図からの読み>>

1991=\$30billion; 1992=\$40 ; 1993=\$70 ; 1994=\$100; 1995=\$100;
1996=\$105 ; 1997=\$110; 1998=\$180; 1999=\$270; 2000=\$380;
2001=\$360 ; 2002=\$420; 2003=\$490; 2004=\$620; 2005=\$730;

残念ながらこれらの総和が民間企業負債総計にはならない。輸入企業は最終消費者に付けをまわすから。この間に元本償還もがある。企業負債=設備投資&運用資金の社債等、結局よく判らない!。2005年は87兆円(120円換算)だから最近の年間貿易赤字は巨額。米国(政府負債+地方債)累積(government bond)は日本財務省役人の話だと2002年で $GDP \times 1.4 \doteq 1400 \text{兆} \times 1.4 \doteq 2000 \text{兆円}$ 。一般論としてGDPの50%を超えたら実態は破産状態になるだろう。米国負債は不履行なしに解消しない。この部分をclickすると次の数字の世界銀行資料参照可能。 $12 \text{billion} \times 120 \text{円} = 1400 \text{兆}$ が米国の対外債務。この内日本の100~200兆円は筆頭でないのか?。

(4)米国の預金通貨資産:

米国預金総額は対外対内債務相殺に寄与するが不明。近年の預金率は極度低下。日本の高貯蓄率は世界的には稀な存在と言われる。

④米国が不況化で世界はどうなるか?。

債権国は損害(担保物権?)、米交易依存の諸国は輸出市場減で不況化。

⑤0サム定理から見た金融最終決済:

負債減=通貨資産減だから返済履行不能では債権放棄担保没収の両者痛み分けになる。さて担保と言うのは何でも必ず確保できるものなのでしょうか?。

⑥財務省に米債務データ質問の所,8/20 日次回答あり.検索作業に感謝申し上げます。

・米国のGDPは、米国商務省経済分析局より公表されております。

<http://www.bea.gov/national/index.htm#gdp>

・各種債務残高は、米国連邦準備制度(FRB)から発表されている資金循環統計に掲載 されております。

<http://www.federalreserve.gov/releases/z1/Current/data.htm>

今後とも財務行政にご理解とご協力をお願いいたします。

※このメールは発信専用です。ご返信いただいても回答することができません。お手数ですが、当省へのご意見等は「ご意見箱」(https://www2.mof.go.jp/enquete/questionnaire_jp.html)よりお願いいたします。

財務省大臣官房文書課行政相談官 佐藤 浩一

付録5:経済成長と金融破綻<0サム定理と正帰還不安定性>

➡ 不況からの脱出原理。

'07/8.17

景気変動要因と今後予想される世界経済停滞、不況への対策方法を試案した。
試案ですから正解かどうかの保障は判りません。

① 経験論:好況不況サイクルの反復経済史。

資本主義勃興以来、世界諸国は常に好況不況サイクルの反復歴史だった。
それらは次の要因(1),(2),(3),(4),(5)に支配されてる。

(1) 0サム定理:

通貨資産(余剰)総量 - 負債総量 = 0.

誰かの儲けは誰かの負債に相当すると言う純会計学的帰結で誰も回避できない定理。なほ資産には物(耐久 & 消耗財,株券,その他)資産と通貨資産(現金預金,債権等)の区別がある。従って経済成長で富裕層増大となれば、その余剰を相殺する大負債者が必ず発生。他言すれば「**経済成長は負債先導で可能になる!**」。その彼らが需要成長飽和で景気停滞から下降で破産すれば不況が始まる。その時、債務不履行は不可避が0サム定理。大不況が嫌ならば大富裕層を作らない!。0サム定理例外は政府公認偽札作り(政策インフレ)の場合、上定理は破れる。と言うのも

取引なしに通貨資産が一方向的に増えると言う文字通りの**贋金作りだからだ**。議論後述。

(2) マクロ経済系の本質的な正帰還不安定性:

好景気は皆の所得を増大、それは需要も増大で更に売り上げ増は所得増へ、逆に不況は皆の所得減、それは需要減に働き一層に不況を促進。この結果が原因促進因子になる系を一般に**正帰還系**と呼ぶ。正帰還系は一般に**不安定系**とも呼ばれる。逆に結果が原因抑止因子になる系を一般に**負帰還系**と呼ぶ。負帰還系は一般に**安定定常系**に成る。同様に如何なる市場にも価格供給量に関しては通うな正帰還要因を持つ。他方株空売り空買い、先物取引は期限契約 & 株債権、資源商品限定的だが価格安定化作用。政府系機関経済操縦も効果はあるのだが。

—(3) 需要飽和 vs (4) 新規需要と政策需要喚起—

上値からの下降(需要飽和)と他方底値からの上昇(新規需要喚起)には別要因が働く。

需要飽和とは欲深人間でも所得との間には当然**市場規模に限界**があるという当然の話し。

(5) 大規模資金運用と情報の両輪による市場操作<金に絡む事では談合悪知恵が?!>:

市場は売り手買い手の指値出来高合意で成立する。だが明されたら重大事だが筆者観察経験では大資金運用可能な機関投資家等がある規模で市場価格・出来高を操作し、一般投資家が依存する市場情報にも操作の懸念を持っている。誰に利益かって?!.

(6) 債権放棄,連鎖倒産,経営難-失業と政府歳入減等の不況経済:

通貨資産は可処分所得中の余剰に相当し、これが破産債権放棄では余剰負債同額で消滅。富裕債権者は通貨資産減と物資産増(担保物権獲得)、負債者は負債減と物資産減(担保物権消滅)。売掛債権だと連鎖倒産(3)に発展する。物供給は過剰化し、可処分所得は後退するからデフレ化不況になる。貧乏化になるが物価減だから相応な暮らしになるが不況経営難-失業と不況歳入減、人心に統一的信念がないと社会不安の問題も起こる。

②不況時の新規需要喚起政策等と資金調達法:

(1)富裕層増税での政策発動財源確保。

難点は何と言っても富裕層の抵抗。だが公共民間投資は結果的に乗数効果(金は世間の回り者)で大局的に投資額以上の付加価値所得を生み出す事実を重視すべきだ。

(2)政策インフレ:

賃金作りは本来重罪だが、国家が国民生活に必須と判断した場合は政府が財源を印刷してしまう。大局利益優先で決定される。但しその代償としてインフレ発生が付随する。現実には英国カナダ等では実施されたと言う。定量解析の原理は経済回路網力学にあり。

(3)日本に着いて言えば**国家経済基礎に不足があるのであり、公共民間事業対象はある。農業漁業その他等の資源と食糧自給率向上政策**。現在は国際価格では負けだが、将来的な世界需給傾向を考えると長期的には良い政策に必ずなる。

(4)資源循環型工業化の推進:

既製観念を超えたエネルギー、素材とシステム工学に活路がある。これも世界需給傾向から必ず有利になる。だから(3)(4)は長期投資として民間資金調達の道もあるだろう。

(5)適正価格調整での住宅公共&民間供給:

失業・給与減に成った時、家なしでは憲法 25 条違憲。少なくとも量的には十分に供給量(家賃収入0の空き家の意味)はあるのだから需給調整、所得調整等を図る旨い柔軟で奇抜で整合的な制度が欲しい。居住費減は所得負荷を大幅軽減。食糧供給等も同様。

(6)健保年金介護等の一括税化:

誰もこのサービスなしで済まないし集金業務が大幅省力化。所得再分配でもある。

*介護商売化が”悲惨な現状”を形成、地域的志願者奉仕制度しか残る手立てなし?!

(7)文化芸能等の産業:

個人的見解だが、海外世界で売れるアーティストが日本は少ない。

町の大道芸人、占い師等も少ない。

(8)

(9)

(10)負債増大の無い準定常経済模型?の可能性を解いて下さい!(昔は皆そうでしたけど)。永久に経済成長がある訳で無く究極はどうなのか?逆にそこから現状を見る。

(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7)(8)(9)(10)等の詳細具体化設計体制を早急に望む。

③サタン麻薬経済体制からの禁断療法の市民の必要認識:

既に温暖化に伴う天候異常での生活基盤破壊と生存資源破壊は現実化してるのに未だに大型乗用車,大量電力消費生活等の麻薬依存、この脱却なしに人類自殺が止められるか。

④不況下でこそ「共に生きる」の実践が問われる!。

この賭け文句が実践できねば神仏は人類を見捨てるだろう。

参考書:鈴木基司,経済回路網力学,時事問題工房,1998.

*同書解説には初等微積分,行列論等の予備知識が望ましい。少々辛抱すれば原理は理解できます。実務化解析には(経済統計&数理解析)専門家が必須化。